



原体験を大切にしたい英語教育について

数年前になりますが、シンガポールに派遣された生徒さんたちが、派遣報告に来てくれたことがありました。私が「シンガポールでは言語が異なり会話に不自由な大変でした」と言葉を掛けたら、生徒さんから「言葉は相手に意思を伝える手法であり、たとえ英語が解らなくても意思を伝える熱意があれば通じ合えます」との返事でした。私はその言葉を聞いて感動・感激をしました。私も、学生時代に英語を勉強した経験がありますが、学校での英語の授業はどちらかと言えば、文法重視で相手に意思を伝えるという概念は、気薄であつたと思います。

このたび、学習指導要領が約10年振りに改訂されます。その中で、外国語教育の充実に向け、小学校の高学年では外国語が教科に、中学年では外国語活動として位置づけられることになりました。「原体験」と言う概念から、人の生き方や考え方に大きな影響を与える学童期に英語教育を取り入れることは、大変効果があり、素晴らしい事だと思えます。

小学生の時から英語を学ぶことは、子供達にとっては、学習の範囲が広くなり

大変なことと思いますが、我々、大人にとつても大変な事となると思えます。子供達の家庭での英語学習において、逃げていては解決に至りません。私は、難しい文法を学ぶには抵抗がありますが、相手に自分の意思を伝える手法として、身振り手振りを併用する英語教育であれば、大変身近な感じが致します。「相手に意志を伝える英語」への変革は歓迎するところであり、私も子供達と同じように英語をコミュニケーションツールとして再認識し、楽しく外国語に接していきたいと思えます。子供達の学習スタイルの変革に合わせ、我々大人も語学学習に対しての先入観（壁）をなくしていく必要があると思えます。そして、家庭では子供達と親と一緒に、外国語の楽しい学びを深めてもらいたいと思えます。

安芸高田市は外国人観光客が年々増加しています。安芸高田市には国史跡の郡山城跡・甲立古墳、湧永庭園・土師ダムといった景勝地、神楽・田楽の伝統芸能サンフレッチェ広島・湧永レオリックのマザータウン、等々の「宝」が沢山あります。言語の異なる外国人に、これら安芸高田市の「宝」を効果的に宣伝発信する為には、行政のみならず、市民の皆様も「市民総ガイド」として協力して頂ければ幸いです。3年後には東京オリンピック・パラリンピックが開催され、これまで以上に外国人観光客が安芸高田市を訪れると思えます。丁寧な案内、言葉遣いは外国人の印象を良くし、オリンピック・パラリンピック後の安芸高田市の観光客の増加に寄与してくれると確信しています。

私は食・文化も気持ちを伝える言葉と想っています。安芸高田市では、多文化共生事業の一貫として、ポットラックパーティーによる食・文化の交流を行っています。また生涯学習事業として英会話教室を実施していますが、外国人や市民の皆様が気軽に参加出来る仕組み作りを検討していきたいと思っています。

